

《十一月の花》

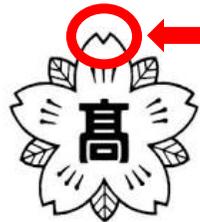
《日新高校の校章について》



皆さんは運動場に、日新高校の校章（左の図）を模った花壇があるのを知っていますか？ どういう経緯で造られたかは分からないのですが、レンガでうまく縁どられていて一目で校章であることが分かります。そこで何の花を模っているのか調べてみました。まず特徴的なのが、5枚の花弁で先が割れています。これは「桜の校章」の特徴に当てはまります。もし梅の花であるなら、花弁は割れずに丸

いからです。以下いくつかの高校の校章で確認してみます。

桜の校章



違い

梅の校章



日新高校の歴史は、大正10年に私立「大正学校」として大阪市内淀川橋に創立されます。そしてその2年後に校名を「日新商業学校」（下図は旧校章）と改め、昭和23年布施市立「日新高等学校」となります。その後、昭和42年に布施、河内、枚岡三市合併にともない東大阪市の「日新高等学校」となり、昭和49年に東大阪市日下町に移転し現在に至っています。今年で創立100周年を迎える高校は、大阪府下でもそうありません。在校生の皆さんにはこの混沌とした時代にあって、日新高校の伝統と誇り、気概と信念を持って「一隅を照らす人」になられんことを期待します。



【中庭のクリスマスローズ】

中庭のクリスマスローズが少しずつ咲いてきました。昨年、中庭の雑草に埋もれていたクリスマスローズを見つけ、それらを掘り起こして鉢植えにしました。去年も咲いてくれたのですが、手入れの仕方（古くなった葉を落とす）がよく分からず、我流で育てています。写真では、株元に小さな白い花芽が出てきています。名前の如く、クリスマスには満開になって欲しいです。



【運動場のイチヨウ】

運動場のイチヨウの木が、色づき始めました。イチヨウの木は水分を多く含んでいるので、日本では古くから延焼防止のため、寺院や神社によく植えられています。さて皆さんは、「現在のヨーロッパのイチヨウ並木は、日本の木がルーツになっている」ことを知っていますか？それは約300年前、長崎に来ていた外国人（日蘭貿易）が種を持ち帰ったのが始まりです。当時の外国の人は、イチヨウの木を見てとても驚いたそうです。なぜなら、自分たちが化石（石炭）でしか見たことがなかった木が、そこら中に生えているのですから……。今で例えるなら、「ジュラシックパーク」の世界です。ひょっとして「恐竜も現れるのでは？」と思ったかも知れませんね。

《春の息吹が少しずつ》

春に咲かせる花苗が、少しずつ大きくなってきました。写真左から、ネモフィラ、サクラソウ、菜の花です。特にネモフィラは種まきが遅れたにも関わらず、ものすごい数の花苗（一目数千株）ができそうです。地元の幼稚園や小学校、中学校



にも再度お裾分けするつもりで、校舎のグラウンド側通路にポット苗（現在千株ほど）を並べています。傍を通る際には気をつけてくださいね。



左の写真はネモフィラで有名な「ひたち海浜公園」です。ここまでの花を咲かせるには、一人の力では無理なような気もしますが、無理であればあるほど「やってみたくなる」のが私の性分です。どこまでも遇直でひたむきに、そしてコツコツと「木牛歩々火中に行く」が如く、花の日新を目指します。 文責：廣川